議する所あるならん且各同心協力して国家を保安すへしと旨あらん西郷も伊知地ハ迎ニ参候得ハ出京するかも不知御注文之新歴差上候御落手被下度候外に紙包物一ツ陸軍会社ニ托し御送致可致右ハ御年玉とハ不申候得共御祖母様の御慰までに備候一條并二見ェ之尊書ハ早速相届候新聞紙ハ何ニ御覧に御座候や且家禄高何程なるや忘却致候間為御知被下度候当時ハ如何御暮ニ御座候や嘸御煩慮ニ可有之と奉恐察居候小野組も三井ニて後請負候由なれ共中々急に片付申間敷併決て金子預ケ候者ニハ不条理の所置ハ政府ニても同組ハ勿論致間敷故ハ国中ノ信を失て融通を妨を恐テ也先ハ謹答

御尊父様　　（長閑注記）　　武夫拝

御座下

（長閑注記）
（朱書）「（二ノ十四日達し返事此方第二号）」

60　明治8年2月7日　菊池長閑宛

第二号　二月七日書ス

第一号一月廿五日附之芳墨拝読皆様御壮剛ニて御超歳之趣愛度存上候然に瘧を御煩之由嘸御艱苦被遊候ハん御軽症にハ有之共御摂生第一ニ被遊候様奉祈候本宿も去月初に帰朝致候共両三度一寸逢候而已にて近日緩話を致候筈同人も彼地出張中中尉ニ昇進候青山ハ矢張写真家にて陸軍省ニ被雇候大蔵省の煩雑ハ小野一件ニ付昨年の末なとハ余程忙接人に因てハ小野方ニ詰切ニ有之候恐クハ是等より出たる説ならん併此節新聞紙にも見得候通木戸大久保黒田井上等大坂ニ集会する由多分条約改正ニ付て談